

EUSI メールマガジン Vol. 080

「ヨーロッパへどのように発信するか——パブリック・ディプロマシーの方策と課題」(鶴岡路人)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 062】

「ヨーロッパへどのように発信するか——パブリック・ディプロマシーの方策と課題」
鶴岡路人 (防衛研究所主任研究官)

日本では、ヨーロッパ人の日本やアジアに対する誤解や理解不足に対する不満を耳にする機会が多い。

国際関係は、現実には起こっていることよりも、それがどのように見えるかという認識・印象によって左右される度合いが近年特に強まっている。そうである以上、日本に対する誤解、とりわけ事実に基づかないネガティブな理解が蔓延することは大きな問題である。パーセプションは、現場の努力を無にしかねない破壊力を持つ。そうしたなかで、相手にどのような発信を行うか、そしてそれをいかに効果的に行うかがさらに問われるようになっている。

その前提には、ヨーロッパにおける日本やアジアの政治、安全保障情勢への理解が、近年改善されつつあるとはいえ、やはり全般的に低い水準にとどまっているとの現実がある。

他方で日本側では、「分かっていない人を相手にしても時間の無駄だ」との雰囲気生まれがちである。しかし、相手が日本のことを「分かっていない」ことがこちらの不利益になるのであれば、その状況を改善するために努力をする他ない。日本からの発信、そして対話が必要な所以である。

そこで以下では、特に政治や外交、安全保障の分野を念頭に、日本がヨーロッパに対して発信するにあたっての方策と課題を筆者の経験から考えてみたい。これらは通常パブリック・ディプロマシーとして捉えられる分野であり、ここでもそれを中心に議論を進めるが、実際には、相手国の国民や社会全般への発信のみならず、政府間の対話においても類似の諸問題に直面することは珍しくなく、求められていることには共通点が少なくない。

「仲間」としての発信

明確な敵対国を相手にする場合は別だが、欧州のようなパートナーに対する効果的な発信の第一歩は、相手に対して「仲間」であること、すなわち「我々」の一部であると認識させることである。相手を論破することが目的ではない・・・。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol62.pdf>

【EUSI イベントご案内】

1. EUSI Workshop「多言語主義と欧州私法の調和: 課題と展望」

日時: 2015年11月4日(水) 13:00-14:30

場所: 一橋大学 国立東キャンパス マーキュリータワー5階 EUSI 会議室

講演: 「多言語主義と欧州私法の調和: 課題と展望」

バルバラ・ポッツォ (イタリア・インスブリア大学教授)

司会: 中西優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授、EUSI 所長)

言語: 英語

参加: 事前申込要

参加ご希望の方は、11月2日(月)までに、1. 氏名、2. 所属、3. どうやってこのワークショップを知ったかを、EUSI 事務局 (info@eusi.jp) 宛にご連絡ください。なお、座席に余裕があれば、当日参加も可能です。

<http://eusi.jp/outreach/seminar-workshop/2015-11-04/>

2. EUSI シンポジウム「グローバル環境ガバナンス」

日時: 2015年11月6日(金) 13:15-17:30 (13:00 開場)

場所: 一橋大学 佐野書院 (国立西キャンパス)

言語: 英語 (同時通訳)

13:20-14:40

バルバラ・ポッツォ (イタリア・インスブリア大学教授)

「ヨーロッパにおける環境損害責任: 調和された制度？」

15:00-17:15

中西優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授、EUSI 所長)

「EU 環境法の日本への影響: 化学物質規制を中心に」(仮)

Uli Wienrich (駐日欧州連合代表部通商部)

「EU 気候変動政策」

木村ひとみ (大妻女子大学准教授)

「COP21(パリ)に向けた2020年以降の新枠組み交渉とEU 気候変動法政策」

参加: 事前申込要

参加ご希望の方は、11月2日(月)までに、1. 氏名(フリガナ)、2. 所属、

3. 何でこのシンポジウムを知ったかを明記の上、EUSI 事務局 (info@eusi.jp) に参加をお申込みください。

<http://eusi.jp/outreach/2015-11-06/>

3. アジア・太平洋 EU センター大学院生ワークショップご案内 (1/21-22・タイ)

毎年1月か2月に行われるアジア・太平洋 EU センター大学院生ワークショップが、来年1月21-22日にタイのバンコク(チュラロンコン大学 EU センター主催)で開催される予定です。

「アジア・太平洋 EU センター大学院生ワークショップ」は、2010年「日韓2+3」として日本と韓国のEU センター5つが合同で大学院生による研究報告会を行ったのが始まりです。

EUSI は第1回からこの枠組に参加しており、第1回はEUSI が主催機関として、2010年2月に慶應義塾大学にて開催しました。

その後毎年のように拡充し、2011年は台湾、2012年は釜山、2013年は福岡、

2014年はメルボルン、2015年は濟州島と、毎年アジア・太平洋のいずれかのEUセンターが主催し、同地域でEU研究を行う大学院生のための研究報告の機会が作られています。

後日「Call for Paper」が出される予定です。その折に詳細なご案内を掲載いたします。

大学院生にとっては、自らの研究の研鑽の機会になるのみならず、韓国や台湾やシンガポールや豪州・NZなど同じような志を持つ大学院生と出会い、互いに学び合い研究上のネットワークを作る上でも非常に良い機会です。どうぞ多くの皆様、奮ってご検討下されば幸いです。

(参考資料)

<http://eusi.jp/collaboration/program/asiapac-grad-workshop2014/>

【EUに関するニュース】

- 2015年10月1日 EU競争政策担当相理事会、競争性検査方式や欧州製品付加価値の最大化、VW社調査等協議
- 2015年10月1日 ナイジェル・ローソン英元蔵相、保守党内EU離脱運動を率いる決意を英タイムズ紙に寄稿
- 2015年10月2日 EU報道官、前日の米バージニア州における死刑執行を批判、執行停止求める声明
- 2015年10月2日 英Open Europe調査、保守党下院議員全330名中、EU離脱回答69名、残留は58名、保留203名
- 2015年10月3日 第6回目・EU科学政策フォーラム開催。科学・イノベーション協力に関し実務・有識者協議
- 2015年10月4日 ポルトガル総選挙、第一党・社会民主党大幅減ながらも連立与党勝利、コエリョ首相続投
- 2015年10月5日 ECB、9月量的緩和(QE)による債券購入額は630億ユーロと、月額目標額(600億ユーロ)達成
- 2015年10月5日 Eurostat、8月小売売上高(季節調整済)はユーロ圏19カ国及びEU28カ国で、共に前月比同
- 2015年10月5日 英Markit Economics、9月総合購買担当者指数(PMI)改定値はユーロ圏で53.6と前月比-0.7
- 2015年10月5日 独印首脳会談、印で開催。2013年夏以降中断のEU・インドFTA交渉の早期再開希望で一致
- 2015年10月6日 EU司法裁判所、米は個人情報保護不適切で、欧米間の個人データ移転協定は無効との判決
- 2015年10月6日 ウクライナ東部2州親口派、独自の地方選挙を来年に延期と発表。EU報道官、歓迎声明
- 2015年10月6日 英ComRes世論調査、EU残留支持55%、離脱36%。保守党支持層でも残留56%、離脱35%
- 2015年10月7日 EU・ミャンマー、貿易振興計画(TDP)開始。今後3年で貿易業務支援や農産物貿易拡大推進
- 2015年10月8日 欧州委員会、難民流入対策でセルビア及びマケドニアに1700万ユーロ追加支援を決定
- 2015年10月8-9日 EU司法・内務理事会、難民危機に対する国境管理・送還、テロ対策、データ保護等協議
- 2015年10月9日 安保理、リビア沖の船舶検査を承認する国連決議2240号可決。モグリーニ代表、歓迎声明
- 2015年10月9日 モグリーニ上級代表、チュニジアの国民対話カルテットのノーベル平和賞受賞に祝意声明
- 2015年10月10日 モグリーニ上級代表とヤグラン欧州評議会事務総長、死刑廃止デーに寄せて共同声明
- 2015年10月10日 駐日EU及び加盟国大使、死刑廃止デーに寄せて、日本に死刑制度見直し求める共同声明
- 2015年10月10日 トルコ首都でクルド系デモへの爆弾テロで約100名死亡。トゥスク常任議長、非難声明
- 2015年10月12日 EU外務理事会、リビアに関する政治合意を支持、他にシリア情勢や移民・難民問題協議
- 2015年10月12日 モグリーニ上級代表ら、前日のベラルーシ大統領選挙に対し民主的基準に課題との声明
- 2015年10月12日 EU・中国環境閣僚会議、北京で開催。環境保護や持続可能な成長に関して意見協議
- 2015年10月13日 欧州委員会、農業促進策採択。宣伝・販促費やEU共同融資比率の拡大、販促戦略策定

等

- 2015年10月13日 欧州委員会、研究・イノベーション助成計画「HORIZON 2020」の2016-17年度分計画採択
- 2015年10月13日 モグリーニ上級代表、MH17 便墜落事件調査報告を受け、合同捜査や司法手続支援の声明
- 2015年10月13日 EU・チュニジア、包括的自由貿易協定(DCFTA)交渉開始正式決定。月内に第1回会合へ
- 2015年10月13日 EU・中国環境ガバナンス計画会議、北京で開催。環境計画・情報・企業責任等協力協議
- 2015年10月13日 中国海関総署、今年1-9月貿易額は対EU貿易で前年同期比-8.0%、対日貿易で同-11.1%
- 2015年10月13日 王超・中国外交部副部長(欧州担当)、中国はEU 結束維持を希望と表明、英のEU 離脱を牽制
- 2015年10月14日 欧州委員会、新たな貿易・投資戦略を提案。効果・透明性・価値の主要3原則が柱
- 2015年10月14日 欧州委員会、欧州移民・難民アジェンダ内の優先事項の実施状況に関する政策文書提示
- 2015年10月14日 WTO 紛争処理上級委員会、中国の外国製鋼管への課税はWTO 違反との日欧提訴を支持判断
- 2015年10月14日 EU 報道官、イランで未成年時犯罪のサルベヒ死刑囚への死刑執行に対して懸念の声明
- 2015年10月14日 駐日 EU 代表部で「HORIZON 2020 情報セミナー2015」。EU 研究開発助成での協力事例紹介
- 2015年10月14日 Eurostat、8月鉱工業生産(季節調整済)はユーロ圏で前月比-0.5%、EU28カ国で同-0.3%
- 2015年10月14-15日 日・EU 戦略連携協定(SPA)交渉第10回会合、東京で開催
- 2015年10月15日 欧州理事会、難民危機に関してEU・トルコ共同行動計画を歓迎、国境管理強化等で合意
- 2015年10月15日 EU・中国、企業合併認可に関する運用協力枠組協定調印、合併審査・承認手続の調整等
- 2015年10月15日 モグリーニ上級代表、ミャンマーの全土停戦合意(NCA)調印に対して歓迎する声明

【編集後記】

今回の巻頭エッセイは、防衛省防衛研究所主任研究官である鶴岡路人先生に執筆していただきました。

平易な語り口の中で、例えば、中国を念頭に置きながら日本は欧州とどのように付き合っていたらよいかということについて、目配りの行き届いた鋭い指摘がなされています。自分のことをどのように相手に理解させ、そしてそこから利益を得ることができるような仕組みをいかにして作るのか、といった広く応用の利くテーマを取り上げた含蓄のある内容です。

先日、EUSI では、元駐日 EU 代表部公使で現在 EEAS(EU 外務省)特別顧問である Dr. Reiterer 氏の講演会を開催しました。外交官と学者という2つの経験を踏まえて、EU とアジアとの関係について大変わかりやすく、主に若い学生達に向けて語っていただきました。知識の引出しの多さと巧みな語り口に感心させられることしきりでした。結局は、その人の経験の中で積み重ねられたものにじみ出てくるということを改めて認識いたしました。日本にも知己が多い方ですので、機会があればまたお呼びしたいと考えています。

(藤川哲史・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

戦後英中関係史から EU 研究に入った私にとって、先日までの習近平の訪英は大変興味を持って眺めてました。

英中関係の発展は EU・中国関係とある程度符合するところが多く、1998年の包括的パートナーシップ構築にはじまり、包括的な戦略的パートナーシップ構築(2004年)や、首相級の定期首脳協議(2004年)、閣僚級の戦略対話(2005年)・経済金融対話(2008年)・人的文化交流対話(2012年)の開始など、ほとんど EU・中国間と同じタイミングでハイレベル枠組が創設され、英中間の協力を積み重ねています。

そのような点を勘案しても、今回の訪英は画期的な機会となったといえるので

しょう。まず原発・高速鉄道・エネルギーなど合計 400 億ポンド(7.4 兆円)もの経済投資協力合意がなされたことです。また海外で初となる人民元建て手形のロンドン市場での発行は、将来の人民元の IMF 準備通貨を目指す人民元の国際化の一環として重要な一歩となりました。今回の合意を受け、両首脳は英中関係を「21 世紀のグローバルかつ包括的な戦略的パートナーシップの構築」と位置付けており、その中で EU・中国関係に対しては EU・中国投資協定の早期締結と将来の FTA 交渉開始を謳っています。

それ以上に印象的だったのは、今回の英国側の歓待ぶりにありました。特に首相官邸での公式首脳会談に留まらず、首相別邸であるチェッカーズ・コートにも招いて首脳会談と夕食会を開いたのは、指導者間の親密さを強く印象付けようとしたキャメロン首相の姿勢を窺わせるものでした。チェッカーズに招待される指導者は非常に限られますが、今年はユンカー委員長やメルケル首相がキャメロン首相に招かれて会談を行っており、今回習近平をこの近くのパブに連れて行った写真は非常に印象を受けるものでした。

今回の英中間の会談を終えて、今後他のヨーロッパ諸国がどのように動いてゆくか非常に興味を持っています。今年メルケル独首相やオランダ仏大統領がそれぞれ訪中する予定といわれていますが、経済投資分野の更なる呼び込みや人民元の海外展開などで、独仏も巻き返しを図るかもしれません。

また日本も、現在安倍首相が中央アジア 5 カ国を訪問していますが、中国の一路構想に対して日本がどのようにこれらに巻き返しを図るのか、今後も注視してゆきたいと思えます。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp
